

大分市消防局救急業務の 現状について



大分市消防局 救急救命課

濱崎 正秀

本日の内容

- ① 救急救命課 概要
- ② 救急出場件数について
- ③ 救急ワークステーションについて
- ④ 12誘導心電図伝送システムについて
- ⑤ 自動心肺蘇生器の使用状況について

救急救命課概要

- 救急救命課設置年月日

令和3年4月1日

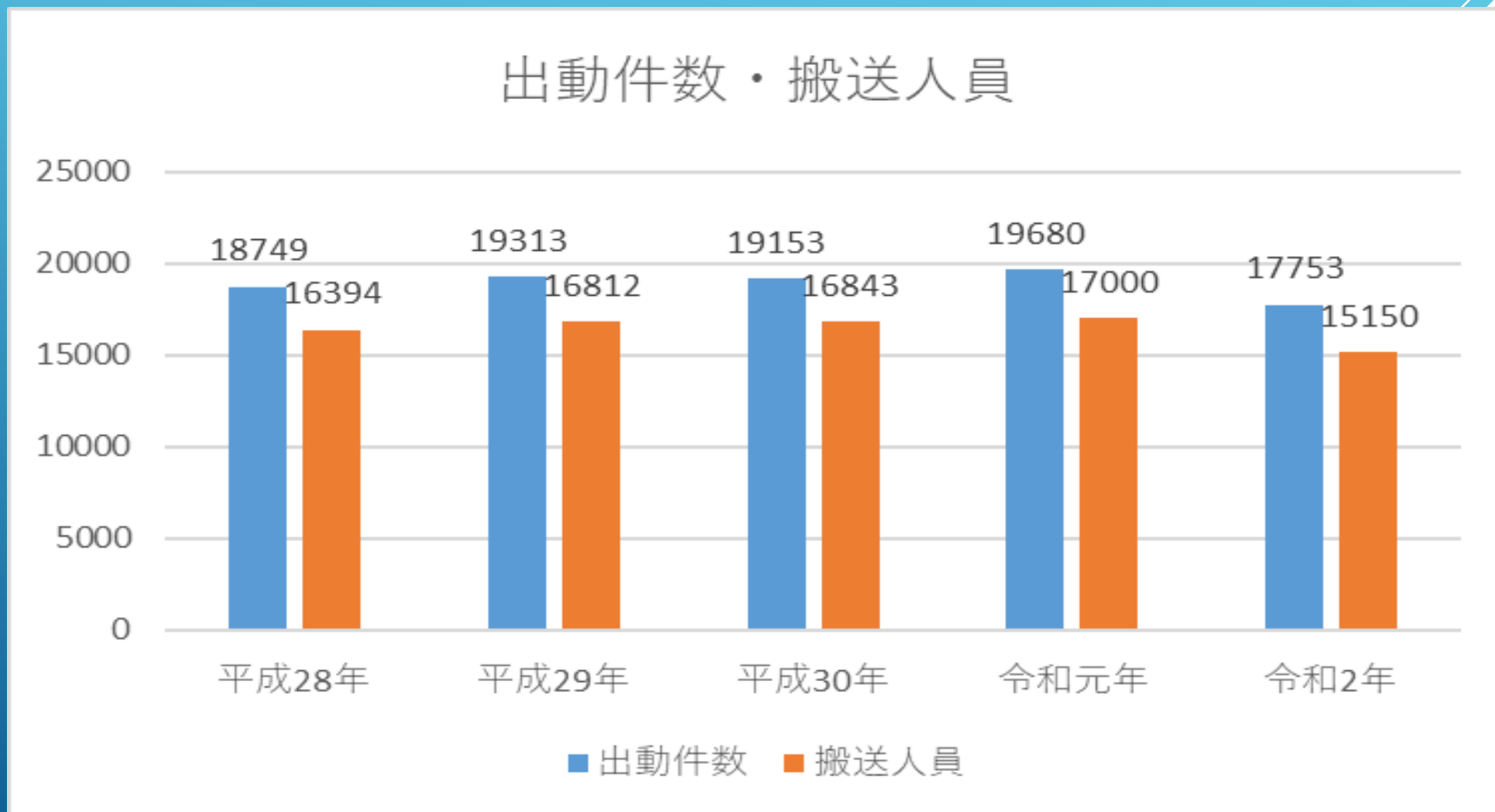
- 目的

高まる救急需要に対し、これまで以上に医療機関との連携を図る中で、高度な救命処置を実施するとともに、救急隊員に対する教育体制を強化しより質の高い救急サービスを迅速かつ的確に提供するため。

- 構成

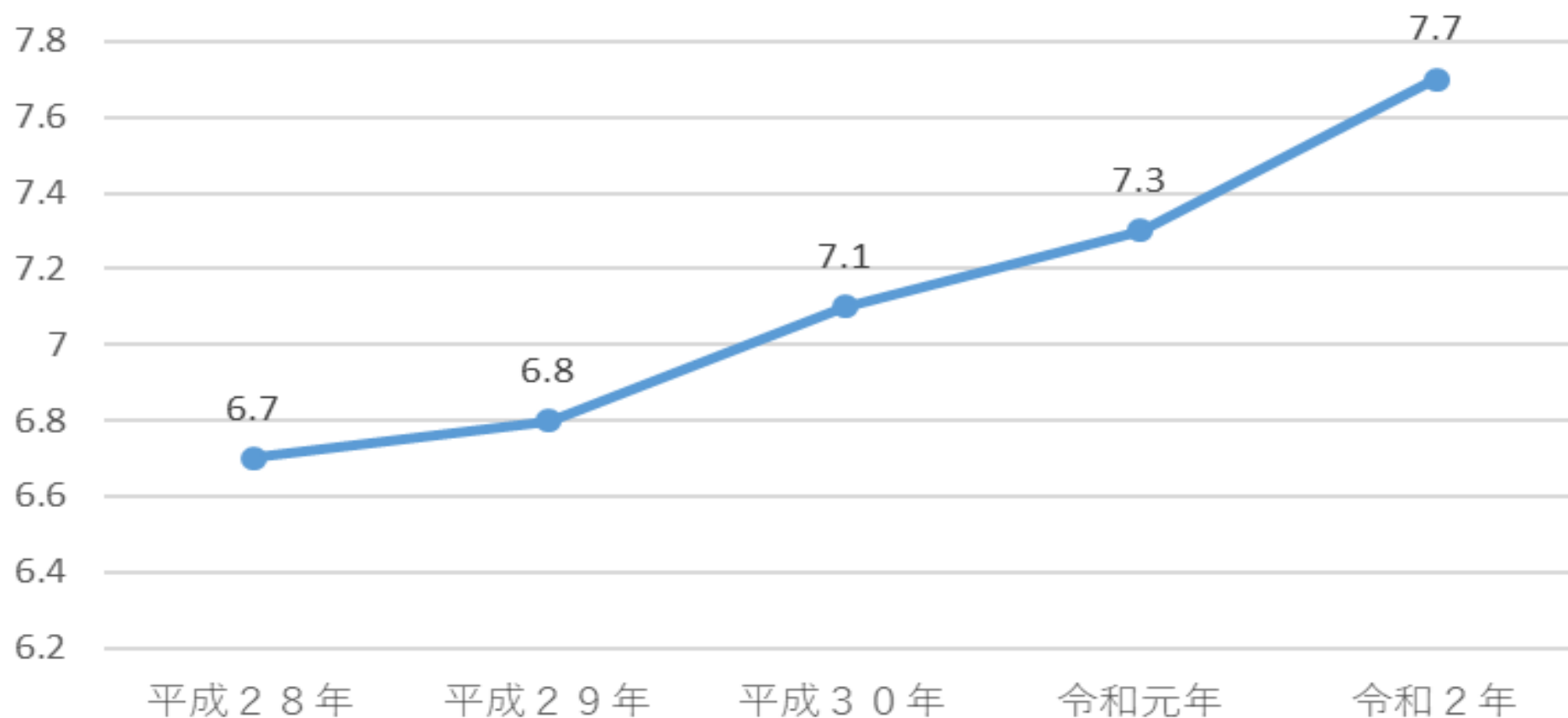
救急管理担当班・・・救急隊員への教育や医療機関との連携に関すること
救命指導担当班・・・応急手当の普及啓発に関すること。

過去5年間ににおける出動件数・搬送人員



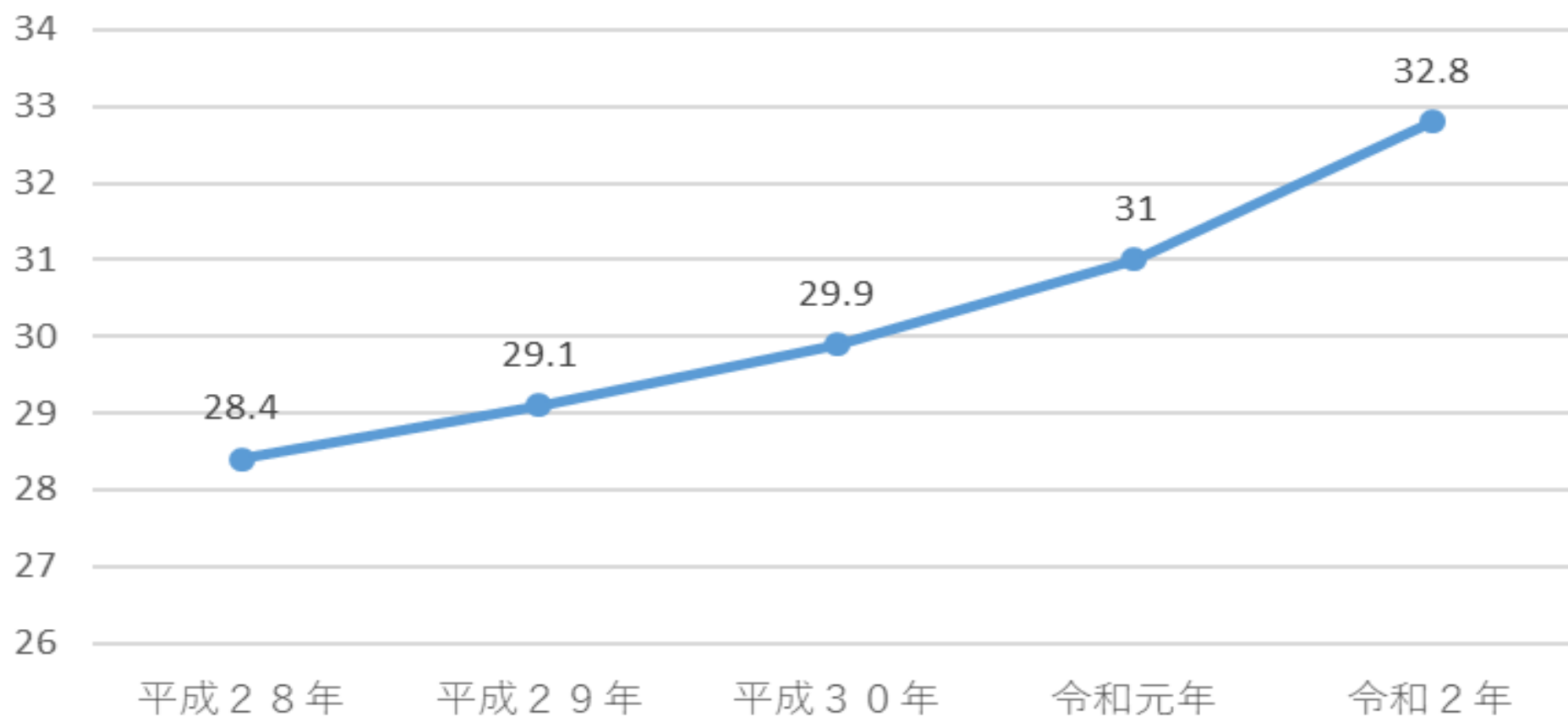
現場到着時間

現場到着時間



病院収容時間

時間



救急ワークステーション



大分市 救急ワークステーション

- 運用開始 平成28年4月1日から
- 実施日時 月～金（祝日除く）9時～17時
- 実施病院 大分県立病院、アルメイダ病院
- 派遣救急隊 中央消防署、南消防署、の救急隊
- 派遣方法 各署の救急隊が週毎の輪番で出向

大分東地域 救急ワークステーション

- 運用開始 平成30年2月1日から
- 実施日時 月～金（祝日除く）9時～17時
- 実施病院 大分医療センター、大分岡病院
河野脳神経外科病院、関愛会
- 派遣救急隊 東署の救急隊が出向

救急ワークステーションの流れ

救急ワークステーションの流れ



12誘導心電図伝送システムの使用状況について

(1) システム導入の目的

大分県が構築した大分県遠隔画像伝送システムに参入し、救急現場から12誘導心電図等の情報を医療機関へ伝送する仕組みを取り入れることにより、更なる救急サービスの向上を図る。

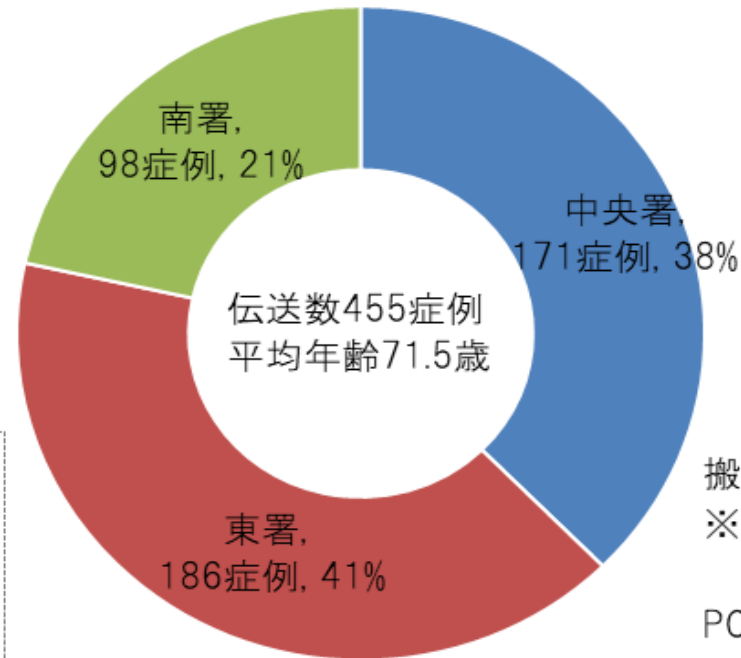
(2) 主な伝送先医療機関 合計8施設 (順不同)

- ・ 高度救命救急センター 大分大学医学部附属病院
- ・ 救命救急センター アルメイダ病院、大分県立病院
- ・ PCI施設 大分医療センター、大分循環器病院
大分赤十字病院、大分岡病院
大分中村病院

使用状況

令和元年10月から12誘導心電図伝送システムの運用を開始し、令和3年6月末日までに455件の伝送を行い、451名の傷病者を医療機関へ搬送しました。

消防署別伝送実績2019.10～2021.06



2019.10～12	74症例
2020.01～12	260症例
2021.01～06	121症例

搬送人員451人
※不搬送4症例

PCI施設への搬送443症例
男性 272人
女性 179人

自動心肺蘇生器の使用状況について

(1) 導入目的

心肺停止傷病者の救命処置を適切に実施することの加え、救急隊員の感染リスクを最小限に抑えることができる。

※令和3年4月1日から全救急車16台（非常用救急車3台）で運用開始



【導入前】



【導入後】

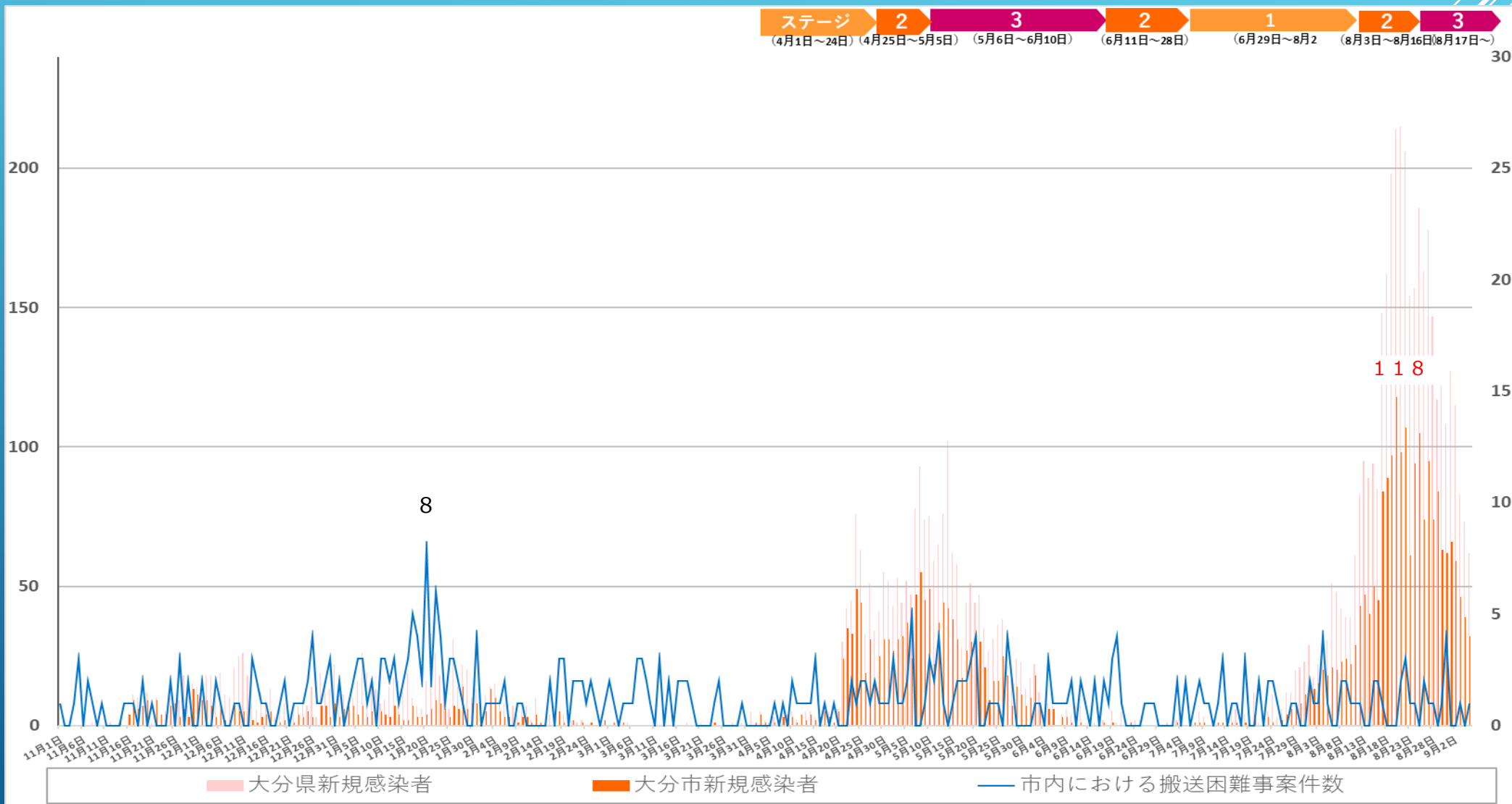
運用状況について

令和3年4月～7月（速報値）

月	全CPA件数		自動心肺蘇生器使用件数				合計（使用率）
			件数				
			中央	東	南	合計（使用率）	
4月	22	120	3	6	5	14（63.6%）	78（65.5%）
5月	34		9	6	7	22（64.7%）	
6月	24		6	1	8	15（62.5%）	
7月	40		9	5	13	27（67.5%）	

大分市の搬送困難事案状況

(搬送困難症例事案とは医療機関への受入れ照会4回以上かつ現場滞在時間30以上)





ご清聴ありがとうございました